

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区子ども読書活動推進計画(第三次) 策定委員会・作業部会（第1回）
事務局（担当課）		文化商工部 図書館課
開催日時		平成27年5月20日（水）10時00分～11時02分
開催場所		会議室B（あうるすぽっと3階）
議 題		<p>議題1. 第二次計画の取組成果</p> <p>(1) 第二次計画の進捗状況</p> <p>(2) 重点目標の達成状況</p> <p>(3) 計画目標の達成</p> <p>2. 第三次計画策定について</p> <p>(1) 国・都・他区の計画の状況</p> <p>(2) 実態調査及び各課ヒアリングから浮かぶ課題</p> <p>(3) 第三次計画の構成案</p> <p>(4) 策定スケジュール</p>
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	<p>委員長 栗原 章 文化商工部長</p> <p>委 員 天貝 勝己 教育委員会事務局教育部長</p> <p>〃 田邊 栄一 政策経営部長期計画担当課長</p> <p>〃 關 慎悟 文化商工部学習スポーツ・課長</p> <p>〃 尾本由美子 池袋保健所健康推進課長</p> <p>〃 原田美江子 長崎健康相談所長</p> <p>〃 古澤三千代 子ども家庭部子ども課長（代理）</p> <p>〃 猪飼 敏夫 子ども家庭部子育て支援課長</p> <p>〃 橋爪 力 子ども家庭部保育園課長</p> <p>〃 井上 一 教育委員会事務局教育部学務課長</p> <p>〃 鈴木 裕美 池袋幼稚園長</p> <p>〃 山根 斎 文化商工部図書館課長</p>

出席者	作業部会 会 員	会 員	熊谷 崇之	企画課企画担当係長（長期計画）
		〃	唐木田英二	区民ひろば池袋所長
		〃	田中 浩巳	点字図書館点字指導員（代理）
		〃	飯野 恵子	長崎健康相談所保健指導係長
		〃	山崎美代香	子どもスキップ池袋第三所長
		〃	石田裕実子	西部子ども家庭支援センター長
		〃	西澤 暢子	保育園課保育園担当係長（新制度関連事業担当）
		〃	入澤 昌利	庶務課庶務担当係長（教育政策）
		〃	宮本 敦史	学務課学校運営係長
		〃	三田 典子	指導課指導主事
		〃	奥秋 直人	西池袋中学校副校長
	事務局	図書館課	元川 正子	経営担当係長（児童・YA）
		〃	松山 操	中央図書館 図書館専門員
		〃	日賀野聡子	中央図書館 図書館奉仕員

審 議 経 過

1. 策定委員長（文化商工部長） 挨拶

第一次の子ども読書活動推進計画を平成17年度中に策定して、平成18年度に新しい中央図書館を造るための準備として私が中央図書館長となった4月に、17年度に策定した第一次の計画を配付する事が最初の仕事で、10年たって第三次計画に着手することになった。昨今、子どもたちの活字離れということもご指摘を受けているので、区としてはこのような地道な計画もきちんと作り、粛々と取組まなければならない課題だと受け止めている。子どもに関係する各セクションの課長さん方、その下の作業部会の係長さん方々に計画の策定に向けてご尽力を賜りたい。

2. 議事内容

議題1 第二次計画の取組成果

- (1) 第二次計画の進捗状況
- (2) 重点目標の達成状況
- (3) 計画の達成状況

資料1-1、1-2のとおり（説明：山根図書館課長）

議題2 第三次計画策定について

- (1) 国・都・他区の計画の状況
- (2) 実態調査及び各課のヒアリングから浮かぶ課題
- (3) 第三次計画の構成案
- (4) 策定スケジュール

資料1-3、1-4、1-5、1-6、1-7、1-8、1-9のとおり

（説明：山根図書館課長）

2. 審議内容（質疑応答）

議題1

委員長：資料1-1のP3「重点事項5 学校への支援・連携学校」で、平成24年度から平成26年度をみると、団体貸出、学級招待が半分以下になっている。大きな要因があるのか。図書館や学校サイドでわかることがあるか。

事務局：平成26年度は休館の図書館があったことが考えられる。

委員長：要望はあったが、学校を支援しきれなかったということか。

事務局：学校のヒアリングを行った際、団体貸出しセットの希望時期が他校と重なったり、セット数が少ない状況があり、当初より使いづらい部分が出ている背景がある。

委員：補足すると、学校図書館の充実がこの時期あたりから出てきて、学校で間に合っている状況がある。回数の数値は下がっているが中身は濃くなっている。

委員長：資料1-1のP4「二次計画数値目標の達成状況」(2)(3)(4)の数値は計画をやったうえでの現れてきた実績で、平成21年度の計画の設定時から上がっていて、数字だけ見るとすばらしい数字だが、豊島区では子どもの読書に対する取組みが良くなっている

と各委員に認識してもらってよいのか。

委員：そのとおりです。特に(3)(4)の数値はこの読書計画の成果そのもので、学校に頼りきりになっている部分はあるが、読書計画で掲げている学校の朝読書等の取組み成果です。

委員長：学校でどのような取組みをされて、ここまでにしていただいたのか。

委員：学校で朝読書や読書を奨励する取組みがされている。予算自体はかなり前から増えて図書の実質が進んでいる。それに加え図書館司書の配置で図書の廃棄が進み、蔵書の精度が高まって、子どもが本を手にする環境が整っている状況。

議題2

委員長：資料1-5の各課ヒアリングから伺える課題と取巻く現状から、スマホ、インターネットを活用し情報を取得することはさげられない。本を読む習慣が中・高校生になり時間も量も減っている世の中の動きがある。その中でどのように読書へつなげるか。インターネットを活用して情報を取得する世界がやってくると、その中で読書活動とは何なのか。我々の読書は紙で本を読む、今の子どもたちは図書館に来なくても調べ物はインターネットで検索すると大体のものは出てきてしまう。本を1冊読みきちんと読み込むことが大切ということを推進していかなければならない。スマホ、インターネット、ゲームに時間を割くことが多くなっている。学校、保健所で子どもたちの問題をどう捉えているのかご意見をいただきたい。小・中学校は、スマホを禁止していると思うが、家庭ではどうあるべきか。保護者から勉強しないなどの問題があるのかコメントをいただければ。

委員：スマホ関係は学年が上がるにつれ親が持たせる、使う頻度が増えている。読書活動との比較では、本校では機会を与えることとスマホに時間を割くから本を読まないとは別の気がする。朝読もずーっとやっているが、読む子は中学に上がってきたときに読む習慣ができていく。給食が終わってほんの5分でも机から本を出して読む子と朝読だけ一生懸命読む子とで、関連性があるというより読む習慣。それから立派な図書館を作っていたので、とにかく図書室に行かせようという学校の方針で、今までは行くことが敷居が高かったが、行くと意外に手をのばすようになるので、行かせようという部分に焦点をあてている。そういう環境でだいぶ変わる感じがする。電子データのものというよりは別に考えれば十分考えられると思う。

委員長：保健所で何かありますか。

委員：読書に親しむとは別ですが、情報リテラシーとういうか、どういう情報を自分で選択していけるかどうか。子どもたちを育てていけるかどうかということで、議論すべき課題とは別の話になると思う。今日の計画の中身の大きなところは、どれだけ本に親しんでもらえるかというところで、感情教育とか本の恵みをどれだけ受けられるかという話だとすると、啓発のところになってくる。

保健所ではいくつか本に関わる活動をしていて、報告の中にもあるがブックファーストのような形で、読み聞かせボランティアに保健所まで来ていただき、最初本にどうやってファーストコンタクトを取っていただけるかというのを、親御さんにそのスキルとかで本の良さを感じてもらい取組みをしている。今月から始めたが、保健所1階のエイ

ズ資料館を秋に改修するが、そこで情報発信する内容を充実させようと言うことで、今月から地域の書店さんのご協力をいただいて、今月の本の紹介というのを始めた。それは何を目的としているかと言うと、大人をターゲットとしていて、子どもが本に親しむためには、まず大人が本を読まないといけない。多分本だけがあってもだめで、子どもの身近な大人がどれだけ本を面白がるかとか、本があることを大事に思うかというところが鍵かなと思う。今月は熊沢書店さんにご協力いただいて本屋大賞の「鹿の王」はウイルス関係、感染症の本でもあるので、それを一生懸命 PR している。大人をターゲットにするのも大事。区として本をどれだけ大事に思っているのかという姿勢を出していくことも大事。大人をターゲットにしたいという話で、昨年末から今回のエイズ資料館の件で、地域の本屋さん回りをしあちこちの書店さんに行ってお話を聞いているが、本を取巻く環境が激変している。活字から離れる、本が売れないということもあって、書店さんも一生懸命本を届けたいこと頑張っているのも、可能なら計画づくりをする中に地域の本屋さんに入ってもらえると、どうやったら子どもに本を届けられるかということ、売る分野ではあるが一番考えていただけるので、また、別の見方があるのでは。

委員長：図書館と本を紹介するという事で連携はしてないのか。

委員：健診の時にブックリストを配っている。

委員：それから中央図書館の集中展示を年に何回か利用して、自殺予防月間は自殺のメンタルヘルスの本を集中的に展示して、タバコの時は禁煙の本、エイズの時はエイズの本で連携を取っている。例えば自殺予防月間の中央図書館の集中展示ですと、メンタルヘルスの貸出冊数とその期間伸びるということがあるので、大人も含めて区民の方にテーマを設定し集中的に PR するのは効果がある。

委員長：民間の書店さんが会議体に入ってもらうのは別として、ヒアリングするのはいいご提案ですね。これまで自治体として書店の売り場面積が日本で1番だといっていた豊島区としては、ぜひ書店さんの意見を聞いていただくのは良いと思う。

委員：大人に対するアプローチが大切との発言があったが、まさにそのとおりだと思っていて、この計画の事業として載っているのは、家庭教育の取り組みの中で、乳幼児の保護者を対象にした読み聞かせの講座をするというのが具体的にやっていて、それは継続していくことは基より、最近学習スポーツ課所管と図書館課で連携が強まっているのが、コミュニティ大学の分野で、参加者が単に講座を受けて帰って行くというのではなく、ゼミ形式で色々研究することをやっていて、読書して書評を書くようなグループもできている。図書館通信に原稿を載せることから始まって本人たちも盛り上がっている。年代的には子育て世代より上の世代の方々ですが、書評を書くだけではなく子育て世代の方にメッセージを発信したりするのも、今後考えられるのかなと思っており、同じ部内のことなので色々アイデアを出していきたい。

委員：子育て支援の関係から、子育てを行ううえでのお子さんへの読み聞かせは重要な役割を担っていると思っており、子ども家庭支援センターでもその取り組みを進めている。児童虐待防止政策として1歳のバースデー訪問がある。訪問時に絵本をプレゼントし届けることにより、普段子育てに悩みをお持ちの方の相談を受けたり、読み聞かせや絵本の大切さを伝えながら、子育てをよりしやすい環境を整えることを行っている。また、社

会福祉法人からも大型絵本の寄付をいただいております、公的機関だけではなく民間等も絵本を通じた子育て支援の充実を模索していきたい。

委員長：昔、平成18年度以前に保育園に対する車を定期的にお金をつけて本を送っていた。バブルがはじけてお金が厳しくなってそれを切った。図書館に本を借りに来いというのはどうかと思うので、「ぐるっと便」の復活をしましょうよ。

委員：昨年度の議会で別の案件で、保育園で子どもの本が少ないのではないかと議員さんからご意見いただいて、そんなことはなくて、図書館から本をいただいて充実させていることはお話したが、今委員長からのさらにサービス充実ということで、図書館から本を配りに来てくれることがあれば、さらに充実させていけるのかと思う。電子書籍、電子媒体を園児が使用することは考えられないが、親や保護者の世代や保育士自身の活用も今後考えなくてはいけないと思うので、今後この計画で何か方針や方向性がみえてくるとよい。

委員：図書ネット便は教員にとって助かる制度。小学校では教師による読み聞かせを行ったり、読書旬間でかなり定期的に本に触れる機会を学校で設定して取組んでいる。その他の取り組みとして、栄養士と共同で絵本に出てくる食事を実際に給食でメニューに載せて、本を展示しながら本のリクエストででた給食ですと案内するなどの活動をしている学校もかなり増えている。現状として、低学年は図書館へ足を運んで本を読む機会も多いが、高学年になると時間的な制限もあるので、高学年から中学における読書量の増加が課題であることは認識している。昨年に引き続き中央図書館の協力で教員向けの研修を実施している。テーマは「調べ学習につなげる読書の充実」で、専門的な知識をいただきながら先生方に周知している。今年は小学校と中学校を分けて、よりニーズにあった研修を企画している。

委員：資料1-6の「5豊島区の子ども読書活動の現状」で、東京都と区の不読率を比較すると、東京都は低学年から不読率が上がっていく、それは受験とか部活動とか他の事に忙しいので、本を読んでいる時間がなくなるという理由に落ち着くと思うが、豊島区の数字を見るとなぜか1年おきに上下してジグザグ状態になっている。これは何か要因があるのか。計画の中に現状がこうだと言う以上は、分析などの記載も必要だと思うが、何か理由があるのか。

事務局：分析はしていないが、今後の計画策定に向けて分析をしていきたい。資料の出典は、平成25年8月に東京都が実施した「児童・生徒の読書状況調査（読書についてのアンケート）」結果の数値のみを東京都からいただいて、その数値を掲載した。

委員長：ということは、まったく同じ調査を同じ時期にしているので、この数字は同じ土俵の中から出てきた数値だということですね。

委員：それでは、資料1-5で出たものをもう少し各課で深めていただいて、今後は各課の計画事業の候補をあげていただいて、事務局で集約したいと思います。1-6の構成案はこれでご了解いただいたということでよろしいですか。

副委員長：事務局に要望ですが、今回の第三次計画の目玉と申しますか、第二次までやってきて課題を色々抽出しているが、活字離れをどう食い止めていくか、読書活動はどれだけ活字を読むと言うことに特化するのか。あるいは、データの部分でどう結び付けていくのか。調べ学習もあるが、具体的に今回の第三次計画は、情報教育も含めてですが、活字

の意義をどう位置づけていくのかを明確にしてほしいのが1点と、それから目玉を何に求めていくのか。教育委員会としては、学校に図書館司書を配置する計画をより拡充していきたい。要するに図書館に行かせる状況をどう作っていくのかということを中心に組み立てていきたいと考えていて、各保育園、幼稚園も本に接する入口の部分で、どう今回の第三次計画に目玉として位置づけていくかということ、そもそも論を読書ってどれだけ意義があるかということを書いてほしい。

委員長：この計画でそれぞれのセクションで書き込むことによって、関係を良くしようと思う人もお金もかかるので、それを獲得するための昔保育園に車をつけてやっていたそれを復活させていけるような、何でそれが必要なのだということを書き込んで、かけるべきところにお金をかけていけるようなちゃんとした計画にしていきたいと思っているので、ぜひそれぞれのセクションで、やっていきたい目玉、成果が上げられそうなところはここだ、そういったことも頭に入れてこの会議体に参加していただければと思うので、よろしくお願いします。

委員：活字についての意義はまた皆さんと議論していきたいですが、先日テレビで今の子ども達は何でもすぐスマホやウィキペディアで調べて、それがすべて本当だと思うところがある。活字の本来の目的、電子媒体で文字・活字を選ぶときも、その内容の真偽を判別する情報リテラシーを身に着けるのに、子どもの時の読書が必要だと思う。そういうことも含めてこれから各課で事業をまとめてもらい、それを集約して行って、それを調整しながら9月頃にたたき台というか素案を固めて、それからもう一回委員会に提示したいと思いますので、ご協力をお願いします。

提出された資料等	<p>配付資料</p> <p>1-1 第二次計画の取組成果</p> <p>1-2 第二次計画の進捗状況</p> <p>1-3 国・都・他区の計画策定状況</p> <p>1-4 計画の背景となる社会状況と計画の課題</p> <p>1-5 実態調査・ヒアリングから浮かぶ課題</p> <p>1-6 第三次計画の構成案</p> <p>1-7 策定スケジュール</p> <p>1-8 豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）策定委員会設置要綱</p> <p>1-9 策定委員会名簿及び作業部会員名簿</p>
----------	--